

地域防災

災害に強い地域は、自主防災組織づくりから！

規模の大きい災害が発生した場合、防災関係機関だけでは対応できなくなってきました。そこで、家庭における防災への準備を進めておきましょう。災害時では、地域ぐるみの防災活動により地域全体の安全を守ることになります。いざというときに被害を最小限に食い止めるのが自主防災組織ですから、日頃から訓練や講習会を通して、正確な防災知識を身につけていきましょう。

自主防災組織の平常時活動

●地域の災害の歴史を調べ、防災組織の普及を図ろう

防災訓練や講習会を通して、地域の災害の歴史の伝承や防災についての正しい知識を身に付けてもらう。

●みんなで地域の安全点検をしよう

災害時、地域内に被害の発生・拡大につながる原因がないか、また援助の必要な要援護者の確認を行う。防災マップを持って地域の安全点検を行う。また、災害時の活動のために住民の役割分担について検討し、組織化を図る。

●家庭の防災点検をしよう

各家庭の震災時や災害時の安全対策を点検・整備する。

●防災用資機材の整備点検

消火器の使用や土のうの作成など、防災活動に必要な知識や技術習得のための訓練を行う。また、消化活動、応急手当、救出、救護、避難誘導の活動用資材の整備点検を行う。

自主防災組織の災害時活動

●総務班

各班との連絡、調整を行う。

●情報班

町や消防団などから情報を収集し、住民に正確な情報を伝達する。

●避難誘導班

安全な避難経路を通り、避難場所へと誘導する。

●消火班

出火防止及び初期消火活動で火災の拡大を防ぐ。

●救出救護班

負傷者の救出、救護所への搬送、救護活動を行う。

●給食・給水班

水・食料などの配分、炊き出しなどの給食、給水活動を行う。



ボランティア

災害時要援護者は、ボランティアで守ろう。

宇多津町では、高齢者、乳幼児、障害者、言葉の不慣れな外国人など、災害時に自分の身を守ることが難しい人が多くいます。こうした災害時要援護者を災害から守るためには自主防災組織に基づく支援体制づくりが重要です。

1 自主防災組織の平常時活動

災害時を想定して避難経路は車椅子で通れるか、放置自転車などの障害物はないか、耳や目の不自由な人への警報や避難勧告の伝達方法はあるのか。また外国語での掲示や広報手段など、災害時要援護者の身になった防災環境づくりを進めましょう。子供には日頃から災害時の心構えや過去の教訓を語り伝えるなど防災意識を高める環境づくりが大切です。

2 具体的な支援体制をつくらう

お年寄りや乳幼児を避難させるときは、手をつなぐ、背負うなど、しっかりと保護しましょう。また障害者に対しては、複数で援助するなど災害時要援護者に対する具体的な支援体制づくりを。

3 災害時要援護者を復旧活動に徐々に参加させよう

災害後の復旧活動へは、お年寄りや子供たちにも積極的な参加をうながしましょう。何もしないことがストレスや体調を崩す原因にもなるので、目標を持たせ、毎日適度に身体を動かせるよう配慮しましょう。

ボランティアは誰にでもできます！

災害時になると注目されるボランティア活動ですが、これは何も特別なことをするものではありません。そもそもボランティアとは「自らの意思をもって行動する」という意味で、そこに義務も強要もありません。自分ができることを、できる範囲で行えばよいのです。それは災害だけでなく普段の暮らしの中でもできることです。あなたにできるボランティア活動はたくさんあります。積極的に参加してみませんか？